

転換畑における事前の整地を伴う
不耕起播種による秋まき小麦栽培の特性

概要

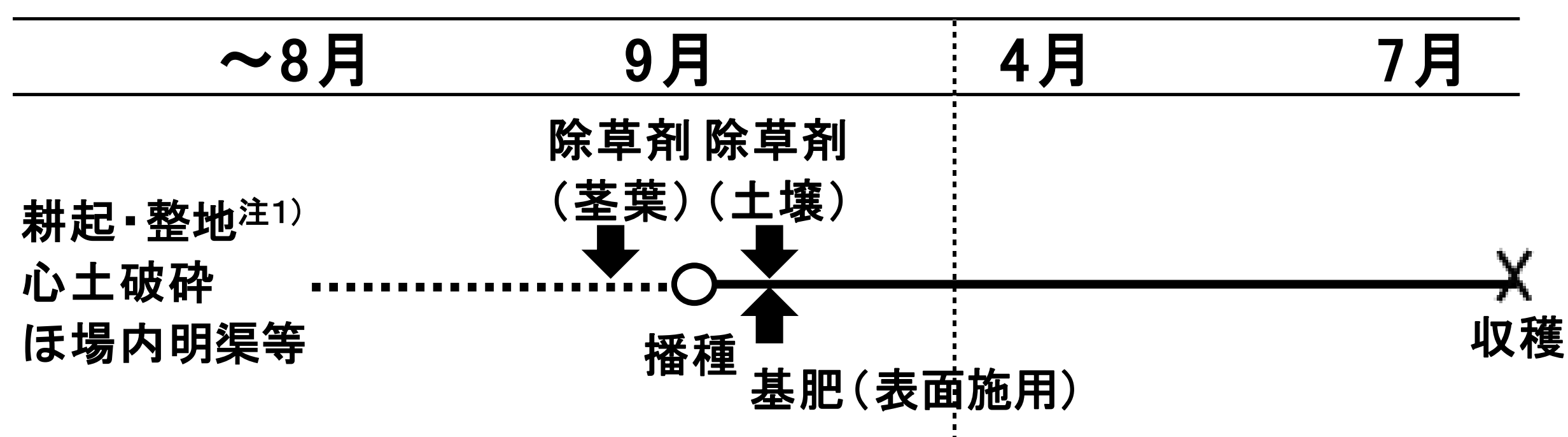
Abstract

転換畑で土壌条件が良い時期に耕起・整地を行うことで播種時の耕耘を行わず秋まき小麦を不耕起播種する栽培法は、通常栽培法との間に生育収量差はなかった。降水量が多く、水稻収穫期でもある9月に耕耘しないことで、作業競合や無理な耕耘による土壌物理性の悪化が低減できる。

成果

Results

事前の整地を伴う不耕起播種による栽培法



注1) 試験では8月上旬までに事前の耕起・整地を行った。

事前の整地を伴う不耕起播種では、耕起・整地を前もって行うことで播種時の耕耘を行わず秋まき小麦を播種する。

表1 秋まき小麦の出芽数、茎数および穂数

播種年度	試験地	試験処理		出芽数 (本/m ²)	茎数(本/m ²)			穂数 (本/m ²)
		処理区	播種量 (粒/m ²)		越冬前	起生期	止葉期	
2013	中央農試	不耕起	170	111	421	937	404	417
		対照		122	492	1230 *	497 *	502 *
2014	中央農試	不耕起	170	129	441	1183 *	909	670
		対照		140	424	971	889	724
2015	中央農試	不耕起	170	157	808	1272	1273	745
		対照		150	837	1063	1298	683
2016	中央農試	不耕起	255	242	864	1096 *	853	687
	中央農試	対照		218	738	778	798	587
	南空知A町	不耕起	255	—	378	760	1116	693
		対照		—	—	1450 *	1111	861

注1) 不耕起区：事前の整地を伴う不耕起播種
 対照区：播種時に耕耘を行う通常栽培

注2) * : 処理区間で有意差あり(t検定, $p<0.05$).

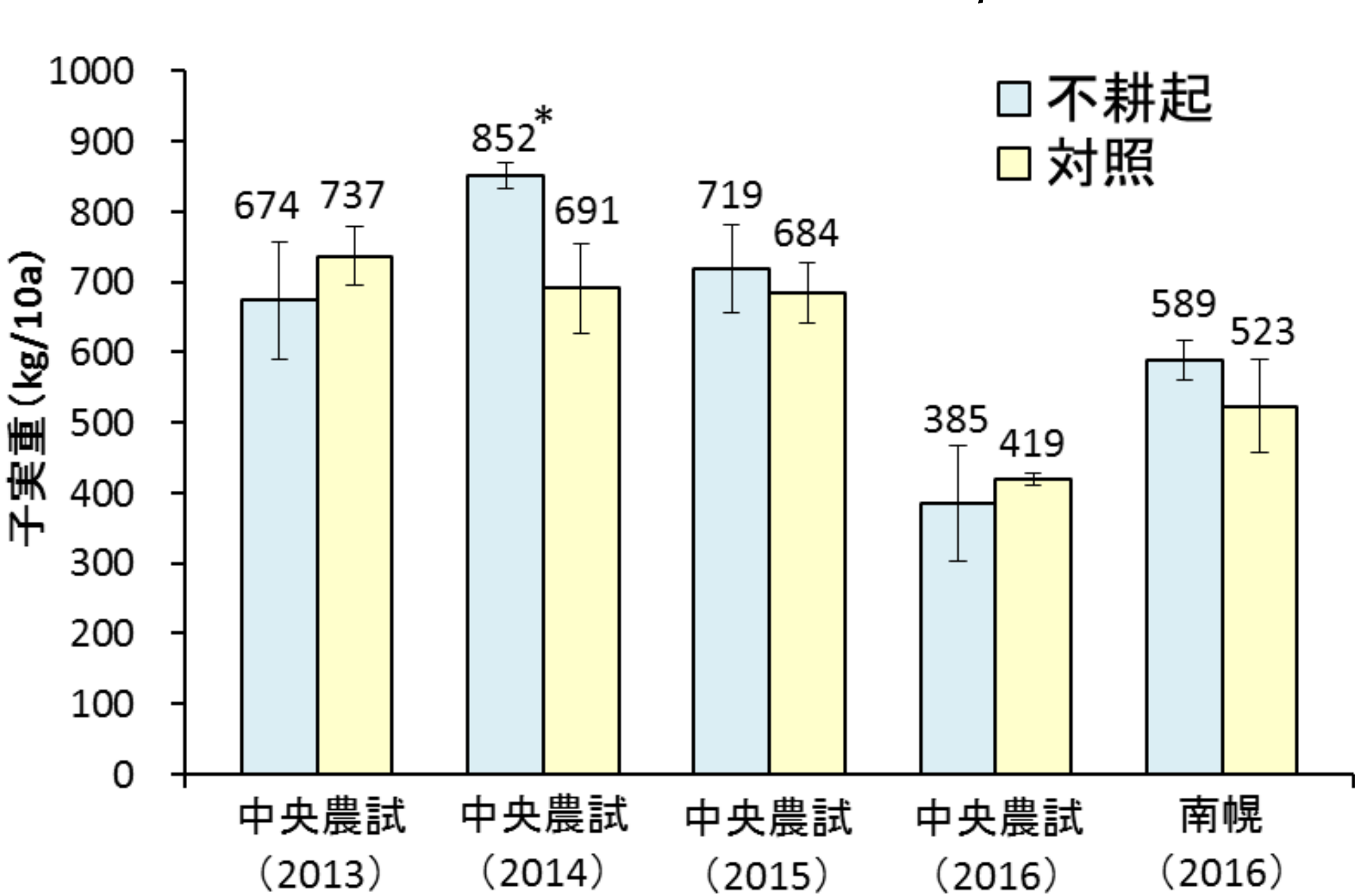


図1 秋まき小麦の子実収量

注1) * : 処理区間で有意差あり(t検定, $p<0.05$).

同一播種量、施肥量で事前の整地を伴う不耕起播種は通常栽培と生育収量は同等。

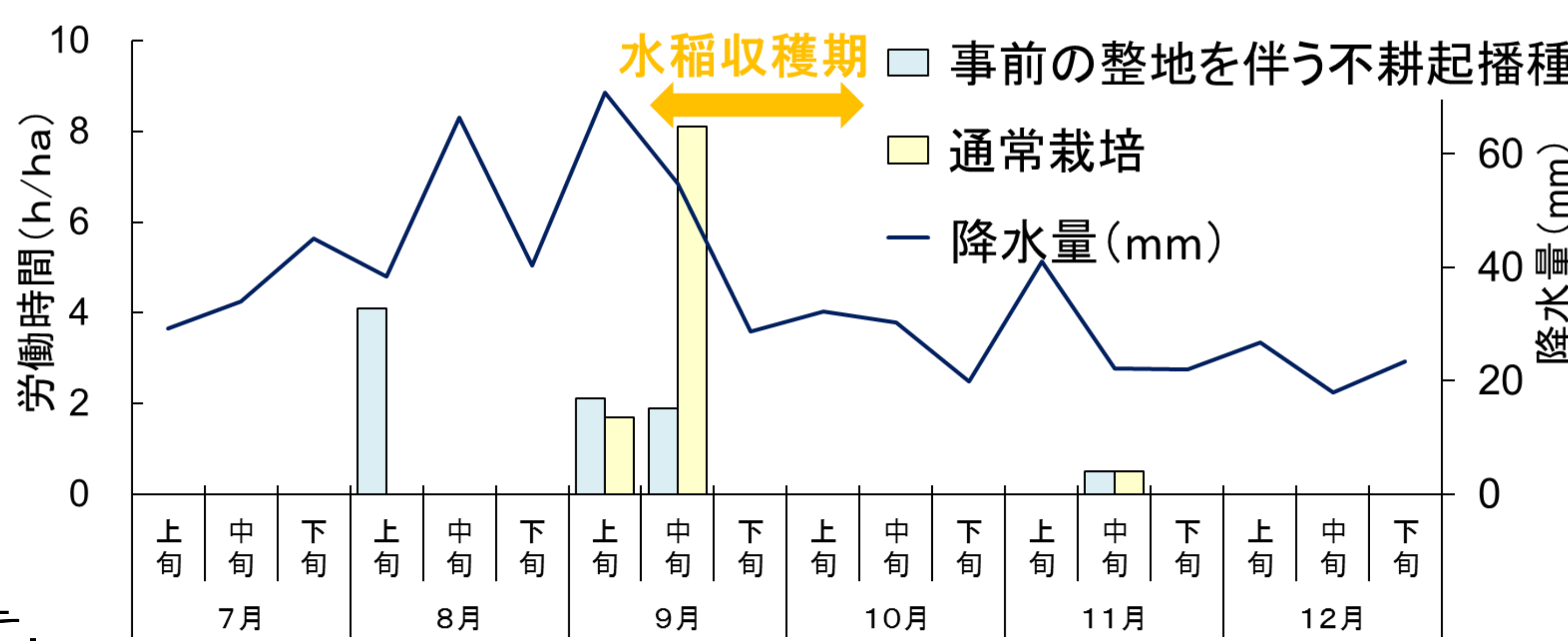


図2 秋まき小麦播種時の旬別労働時間

降水量が多く水稻収穫期でもある9月に耕耘しないことで、作業競合や無理な耕耘による土壌物理性の悪化が低減。

本栽培法の留意点

- 播種後の表面滞水と湿害を避けるため、心土破砕やほ場内明渠等の排水対策を行う。
- 播種前のグリホサート系除草剤の散布が必要となるため除草剤費用が増加する。



連絡先

Contact

中央農業試験場
 農業環境部 環境保全グループ
 0123-89-2582
 central-agri@hro.or.jp